

カーボンクレジットを活用した脱炭素型・高収益稲作体系の検証と普及

☐住む ☐癒す ☐学ぶ
☐動く ☐楽しむ ☒その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

- ・福島県は、有数のコメの産地であるが、震災による浜通り地域の被害は甚大であり、2020年の時点で、被災12市町村（※）の経営耕地総面積20,869 haのうち営農休止面積は17,298 haであり、およそ2割の農耕地が営農を再開したのに留まっていた。その後、営農再開が進んでいるものの、現在も営農休止農地は多く存在しており、農業の振興による経済の底上げや営農人口の回復が望まれている。また、昨今の農業資材・燃料の高騰の影響により、稲作経営では新たな収入源の創出が重要である。加えて、水田は、温室効果ガスであるメタンの主な排出源となっており、脱炭素化が求められている領域でもある。本事業を通じて、脱炭素型・高収益稲作モデルを検証・普及することで、営農休止農地の活用の促進や農業振興に貢献したい。

②提案の概要

- ・本事業では、地域で稲作を営む生産者と共に、水田の中干し延長によるJクレジットの生成に取り組むことで、脱炭素と生産者の所得向上を目指す（収益向上）。また、Jクレジットの生成時に手間がかかる圃場データ収集を水位センサーと衛星画像処理技術の導入により簡易化することで、クレジット申請のハードルを下げる（作業工数軽減）モデルを検証する。
- ・加えて、中干し延長や昨今の高温による生産性の低下リスクを軽減するため、乾燥ストレス耐性を付与する資材（リスク回避）や生産性を高める種子処理技術（生産性向上）を導入しすることで、脱炭素の推進と同時に、収益を高める稲作体系を検証し、普及を目指す。
- ・本件で検証した稲作モデルは、浜通り発の「脱炭素型高収益稲作体系」として全国に発信し、日本の稲作振興に貢献したい。



③事業実施に対し必要な要件

- ・稲作を営む生産者へJクレジット申請や本事業で検証するモデルについて説明する機会をご提供頂きたい。

④想定スケジュール

- ・R6は、Jクレジットの簡易生成モデルの検証、および各地での差栽培試験の実施し、R7に本格普及を目指す。

⑤地元企業等とのマッチング希望

☒ あり ☐ なし

会社名 : 株式会社フェイガー